

令和6年度 自己評価書

令和7年3月24日
真庭市立八束こども園
園長 金崎 知子 印

1. 八束こども園の教育保育目標

○ のびのびと心豊かに意欲をもって生活する子どもの育成

- 保育の専門性と豊かな感性を生かした安心できる環境のもと、意欲をもって生活し、遊び込むことができる子どもの心を育む。
- 遊びを通して、粘り強く頑張ることのできる力、友達と折り合いをつける力、気持ちを切り替えるコントロール力を育み、生きる力の基礎を育てる。

2. 本年度の重点目標

- 子どもの姿を肯定的に捉えた受容的で応答的な関わりの中で、大切にされているという安心感や人への信頼感をもち、コミュニケーションの基礎となる力を育む。
- 自発的な遊びに熱中できる環境をつくることで、思考力や意欲（やり抜く力や学びに向かう力）主体的に行動する力などの非認知能力が育つようにする。
- 地域や小学校との交流を大切にし、いろいろな人と関わる中で豊かな経験ができるようにする。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	各年齢に合わせ、園の保育目標や重点目標に沿った計画の立案や振り返りができていた。	3
行事	例年通りにとらわれず状況に応じて見直しながら、子ども達も職員も楽しめる行事のあり方を考えていきたい。	3
組織・運営	お互いを理解して認め合い、協力し合える組織を今後も目指したい。	3
学級経営	子ども一人一人の発達を理解し、個性や特性に合わせた丁寧な関わりを心がけている。	3
特別支援教育	家庭や関係機関との連携を図り、個々の子どもに応じた指導計画のもと、保育を行っている。	3
安全管理・保健指導	フェンスや門の取替によりハード面での課題はクリアできたが、今後も訓練等を通して危機管理意識は高めていく必要がある。	3
研修（資質向上）	参加できる研修には積極的に参加し、資質の向上に努めた。	3
情報提供・保護者・地域との連携	コドモンの活用により、活動の様子が保護者に発信しやすくなった。 地域の方と新たな交流の場をもつことができた。	3
小学校との接続・連携	子ども同士の交流の他、職員間での話し合いや学びの場もあり、相互理解が深まった。	3
子育て支援	保護者が必要とした時に相談できる関係づくりに努め、子育ての不安が少しでも軽減するよう配慮した。	3
食育の推進（給食）	野菜作りやクッキングなどの食育を通して、子どもが食べることを楽しめるよう工夫している。	3
食事の提供（調理）	大量調理マニュアルに沿って適切に調理すると共に、年齢や個々に合わせた配慮をしている	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

○重点目標について

- 子どもが大切にされていると感じる体験を重ねることで自己肯定感が育ち、安心感をベースに生活や遊びに向かう意欲につながるようにした。安心して過ごせるまでには時間がかかった子どももいたが、受動的で応答的な関わりの中で少しずつ自己発揮できるようになっている。
- 自発的な遊びに熱中できる環境づくりについては、年度の後半に異年齢児でのコーナー遊びを充実させることで、昨年度の課題であった幅広い年齢層の中で人と関わる力を育むという点でも前進できたと思う。
- 地域との関わりについては、高齢者施設の職員の方に行事に参加していただいたり、伝統芸能である銭太鼓保存会の方と交流したりなど、昨年度なかった新たな交流ができたのは成果だったと思う。

○その他

- 日々の衛生管理の徹底やアレルギー児への対応等が適切にできており、保育士とも連携を取りながら安心安全な給食の提供ができていた。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- 子どもが肯定的に認められ、安心して自己発揮できる環境の中で生き生きと生活したり遊び込んだりするためには、園全体で子どもの育ちを見ていく体制が重要だと感じている。
- 試したり考えたりしながら子どもが主体的に遊ぶ体験を通して、学びに向かう力や人と関わる力等を育てることができるよう保育士の視点を大切に、環境づくりの工夫もしていきたい。
- 地域とのかかわりについては、今年度増えた交流を継続しつつ、新たなことも考えながらつながる機会を増やしていきたい。